



視察調査・研修会等報告書

年 月 日	令和2年8月18日～平成2年8月19日
視察調査の目的又は 研修会等の名称	全国若手市議会議員の会OB会 研修
視察調査地又は研修地	宮城県仙台市
対応者（説明者）の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記入	アイリスオーヤマ(株) 大山健太郎会長 仙台メディアテーク企画室 天野美紀室長 宮城県 村井嘉浩知事
出席者（同行議員）	なし
報告事項（視察調査・研修の内容）	
<p>まず、新型コロナウイルス感染拡大、第2波と多くの感染拡大の報告がされて</p> <p>いる中での開催となったが、全国市議会議長会の指針を遵守しながら実施され</p> <p>た。 検温、手指の消毒、さらに開催中はフェイスシールドの装着を必須とし</p> <p>た。また試行としてオンラインでの研修会中継も急遽行われた。</p> <p>「アフターコロナのニューノーマル時代—新生活様式」をテーマとして、</p> <p>アイリスオーヤマ(株)大山会長は、大阪で父親が経営していたプラスチック製造</p> <p>の下請け工場の後を継ぎ、家具に代わるプラスチックの独自製品、プランター</p> <p>等のホームセンターでの販売などにより業績を伸ばし、家電通販で更に拡大</p> <p>コロナ禍において使い捨てマスクの製造、フェイスシールド、防護服等で</p>	

知名度を上げた。コロナ禍において新しいルールや方法が確立されてきており

テレワーク・リモート会議、通販 働くスタイルが変化し

生活様式も変わり東京の一極集中が変わってきつつある、ビックチェンジは

ビックチャンスであると大山会長の自信に満ちた言葉だった。

経済構造が変わりつつある今、私も地域経済の移り変わりも的確につかむ必要

があり、それによって変化する 政治と経済の関係を常に、注視していかなけ

れば、地方自治体が弱体化すると感じた。

仙台メディアパークを視察した。文化と芸術の街仙台を象徴した施設であり

芸術だけでなく、市民交流の活動拠点でもあることが、担当者の説明がわかり

やすく、駆け足での視察となり、是非もう一度、伺いたい施設。ハードは

真似できなくても、ソフトは真似できると感じた。

「これからの地方議会に期待すること」村井嘉浩 宮城県知事の講演でした

地方議員だけの研修で、クローズで行われた研修であり、本音の話をして

頂いた。人口減少時代にはいり、宮城県では20年後に20%の人口減少が

おこる。その時にどう対応していくのか、 高齢社会に必要な医師の確保に

ついて、今から準備をしていくことは、水道事業の効率化を進めるために、

官と民がともに考えていく。仙台空港の民営化などの実績を踏まえて、東日本

大震災の復興もしつつ進めていく。

私も共感できる事として、20年後に必然的に起こることに関しては

大震災の復興もしつつ進めていくと言っていた。

私も共感できる事として、20年後に必然的に起こることに関しては

今から準備をしなければならぬと感じた。人口減少の準備をしなければと

今まで以上に考えさせられた。

上記のとおり報告いたします。

令和2年 9 月 18 日

議長 福田 洋 一 様

議員名 小川 亘





アイリスグループ 会長
アイリスオオヤマ株式会社
代表取締役会長

大山 健太郎

本社 / 〒980-8510 宮城県仙台市青葉区五橋2-12
☎ 022(221)3400(代) FAX022(217)3787
角田ITP / 〒981-1596 宮城県角田市小坂上小坂1番
☎ 0224(68)3456 FAX0224(67)1023
E-mail: ip-office@irisoyama.co.jp

仙台市長

郡 和 子



仙台市議会 議長

鈴木 勇 治

〒980-1651
仙台市青葉区国分町三丁目七番一号
F A X 括 (〇三三) 二二四一一二五〇
〇 (三三) 二二四一一二五〇



せんだいメディアテーク

企画・活動支援室
室長
天野美紀

〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1
tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482
www.smt.jp
amano@smt.city.sendai.jp

宮城県知事

村井嘉浩

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町3-8-1
電話：022-211-2213
FAX：022-211-2292

Yoshihiro MURAI
Governor of Miyagi Prefecture

3-8-1 Honcho, Aoba-ku
Sendai, Miyagi
980-8570, JAPAN
Phone: +81-22-211-2213
Fax: +81-22-211-2292



仙台・宮城観光PRキャラクター
【むすび丸】



視察調査・研修会等報告書

年 月 日	令和3年3月28日～平成3年3月29日
視察調査の目的又は 研修会等の名称	地方議員研究会主催研修 ① 質問作成応用研修 ② 急激悪化！地方の財政
視察調査地又は研修地	京都府京都市 メルパルク京都
対応者（説明者）の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記入	
出席者（同行議員）	なし
報告事項（視察調査・研修の内容）	
まず、新型コロナウイルス感染拡大、第2の緊急事態宣言が解除され、ソーシャルディスタンス対応の上、少人数で実施された。	
質問作成応用研修では、一般質問ではなく、委員会での質問を主として講義をうけた。	
・ 議員自身の立ち位置をはっきりさせて質問すべき	
・ 情報収集をきっちり行う ネット検索の活用、他都市議員も活用すべき	
・ 独自の情報を入手せよ アンケート調査なども有効 現地調査も活用する	
・ 質疑の論理構成を変えて 質疑の想定問答を作成する。	
・ 政策実現にむけて、継続して質問を行うことも重要	
市民に支持されるために質問を考えて、簡潔に明確に 不確かな未来に対する質問と	

提言が必要である、

質問作成の応用を聞いた後、急激悪化！地方の財政の講義を受けた。

アフターコロナの議員目線で持続可能な財政政策について

① 歳入の減少 ②財政調整基金が枯渇 ③コロナ対策で支出増 ④公営企業の減収

が主な要因 対応策として、

一時的な減収不足を補填方法としては、減収補てん債の活用 発行額の75%が補填され、景気が戻れば解決する

財政調整基金の取り崩しは、緊急時には取り崩して使うべきで、まさにコロナ対策には必要であれば、拠出すべきである、しかしその時のためには、積み立てをしなければいけない。大阪市がコロナ対策に大規模な拠出しているが、橋下徹市長時代に積み立てた基金であり、税収が高くさらに財政改革が出来たところだけが、大胆なコロナ対策を実施できる。また借入も収入ととらえるが、問題は中身であり、行政改革推進債は活用すべきではない。

講師が元京都市会議員であり、京都市の事例や、愛知県岡崎市、泉佐野市などの例を用いて説明された。

今後の地方の財政を考えたときには、小山市立体育館建設でPFIの手法で事業化した
が、さらにPFS 成果連動型民間委託契約方式も活用して、事業を行う際には、
成果をもとに検証が必要で、それには、今まで以上に民間のノウハウを活用していく
が必要と思う。小山市でも活用できそうな他市の事例が紹介された。

他市事例

・がん検診受診率向上 東京都八王子市

・民間事業者が庁舎管理のコスト削減策を立案 神奈川県鎌倉市

・レセプトデータ分析で生活保護者の医療費を適正化 神奈川県鎌倉市

新型コロナウイルスが落ち着き 行政視察が可能になれば、神奈川県鎌倉市などに伺い、小山市でも導入を提言していきたい。

上記のとおり報告いたします。

令和 3年 3 月 31 日

議長 福田 洋 一 様

議員名 小川 亘

